

【外部委員未確認】

函館地方裁判所委員会（第 4 2 回）及び函館家庭裁判所委員会（第 4 2 回）議事概要

（函館地方・家庭裁判所委員会事務局）

1 日時

令和 4 年 1 2 月 1 9 日（月）午後 3 時 0 0 分

2 場所

函館地方・家庭裁判所 5 階大会議室

3 出席者（敬称略）

地 裁 委 員 木原由貴、進藤壮一郎、鈴木徹、中村謙三、星野立子、堀哲也、前原浩  
明

家 裁 委 員 岩村敏次、京谷弥生、齊藤淳一、澤村洋子、南部淳、延廣丈嗣、三國富  
美子、渡邊圭太

兼 務 委 員 三木素子

庶 務 函館地方裁判所事務局総務課長 小林哲、函館家庭裁判所事務局総務課  
長 長谷場暁

4 議題

裁判所の調停手続の運営と実情について

5 議事

(1) 前回委員会の議題（要配慮者への対応）についての委員会終了以降の取組状況の説明

(2) 今回の議題についての裁判所説明

ア 民事調停手続の実情について

イ 面会交流を巡る対立のある事件における審理と調停運営の在り方について

(3) 意見交換

別紙のとおり

(4) 次回委員会について

ア 日 時 令和 5 年 6 月 2 6 日（月）午後 3 時

イ テーマ 函館地方・家庭裁判所における採用広報について

以 上

別紙 意見交換の概要

「裁判所の調停手続の運営と実情について」

（委員長）

令和 4 年 11 月に調停制度は 100 周年を迎えました。今後も調停制度を維持して発展させていくためには、調停委員の技能向上と調停委員の人材確保という課題があると裁判所側から説明がありました。そこで、調停委員の技能向上と調停委員の人材確保という点について、委員のみなさまの御意見をお伺いしたいと考えます。

まずは、調停委員に必要な技能である「傾聴」、すなわち耳を傾けて当事者の言い分をよく聴くということですが、相手の話を聞いて事実を引き出すことは調停以外の場でも必要になる技術ですので、委員のみなさまもいろいろな場面で実践されていらっしゃるかと存じます。その御経験に基づいて、調停委員の「傾聴」技能の向上のためにアドバイスをいただけないでしょうか。

（委員）

私は、民事と家事の調停委員を拝命しております。当事者の方は、饒舌な方、ものすごく寡黙な方といろいろな方がおられます。お話しされるペースも人それぞれでして、のんびりな方にせっかちに話しかけてもリズム感が整いません。そのため、最初お会いしたわずかな時間で、この方はどのようなタイプなのかといったことを考えながらお話を伺っております。

当事者の方からただお話を伺うだけでよいのかと言われれば、そうではありません。ここだけは絶対に相手に伝えたいというポイントがきっとあるのではないかという気がしておりまして、調停委員がそのポイントを聞き流してしまうと、この委員には何も届いていないとその当事者の方は感じになることと思います。そのため、お話しをされている方の表情やしぐさを観察しながらお話しすることを心掛けています。

裁判所から説明のありました面会交流の調停事件については、調停委員の間でも解決が難しいというのが定評でして、その理由としましては、離婚時の夫婦の葛藤をそのまま引きずっておられるので、お子さんにフォーカスして考えましょうと言ってもなかなか気持ちが割り切れないために話し合いが進まないからです。その場合には、家庭裁判所調査官に御協力いただいて、先ほど御説明があった親ガイダンスなどを利用して、御両親にお子さんの立場に立って考えていただくように働き掛けているところです。

（委員）

私は、弁護士ですが、家事の調停委員を拝命しております。調停委員は両当事者のお話を

聴きながら調整していく仕事であり、一方当事者の代理人として参加する弁護士とは少し違ったことが求められます。

調停委員の立場で傾聴というと、真っ白になって聴くということを心掛けておりますが、どうしても弁護士の癖でポイントを聴きたくなってしまいます。感情面で問題になっているところが大きいものですから、当事者の方にまずはお話ししていただいてよく聴くことが重要だと思っています。ただ、お話を聞くだけですと話して気持ちよかったと感じるのかもしれませんが、問題が解決するわけではありません。当事者に信頼されつつ、言わなければならないところはきちんと言うというバランスをとっていくのが難しいところです。

調停委員は、裁判所で対面により当事者から直接お話を聴いておりますが、最近は電話によりお話を聴く機会も増えています。その場合、表情や細かなニュアンスをつかむことが難しいところであると感じています。

調停委員として面会交流の調停を担当したことはありませんが、面会交流は、子供のためにより良い解決策を考えたとしても、離婚に至る感情的な部分があるために、1回決めたその解決策を継続して実施していくことの難しさを感じているところです。

（委員）

関係のなさそうな話でも聞いてあげる姿勢が一番大切だと思います。自分が関係なさそうだと思っても、そこに重要な事実が入っていたりすることがあります。相手方の心情的にも、関係がないから聞かないよという態度であると不信感が出てきますので、幅広く聴くことが大切です。

一方でどこかで交通整理をする必要があります。関係性が薄そうだから今回は脇に置きましょうとどこかのタイミングで言わなければなりません。そのタイミングはケースバイケースで、その方の資質や経験によるところが大きいと思います。

（委員）

お話を聴き出すに当たっては、信頼関係を早期に築くことが大事だと思っています。込み入った案件であれば、最初は相手方がいろいろ伝えたい状況ですので、20分はひたすら聴きます。その上で、交通整理といいますか、これから話をまとめていきたいので一つ一つこちらの質問に教えてくださいと言って、イニシアチブを持ちながら相手方の言いたいことを引き出していきます。先ほどこうおっしゃられていましたが、こういう真意でいいですかといったように聴いていきます。とにかく、20分は聴くということを心掛けています。

（委員長）

そのような技能をどのように会得されたのでしょうか。

(委員)

私も士業は、スタートしたときの1か月2か月は上司や先輩について、どのような形で仕事を進めるのかについて学んだりします。基本的には学ぶというよりも、その士業者の人となりにかかってくる部分もあるのかなと思います。

(委員)

大学としては、なんでも相談室を設けて、学生の話の聴いたりしています。また、学生には、学生指導教員がおりますので、相談があればその教員が受けることになります。学生指導教員と学生がうまくいくとも限りませんので、その場合には他の教員がカバーすることで話を聴く態勢をとっています。

一方で、学生の方で教員に打ち明けるのが難しい場合もありまして、その場合には、友人同士で話をしたりとか、部活であれば先輩や後輩に話をしているものと思います。

大学の態勢としては、以上のとおりです。

(委員)

現職の教員をやっている時の経験ですが、子供たちは信頼してくれる教員には心を開いてくれますので、人間関係、信頼関係が一番大事だと思っています。子供から本音を聴き出すには、そこがとても大切です。

教職員は、子供だけでなく、保護者や他の教職員から相談を受けることがあります。校長になった今では、教職員からの悩み相談を受けることが多いです。相談を聴く際には、正に傾聴、いろいろな話をよく聴くことを心掛けています。

(委員)

社会福祉協議会では各種の相談窓口があります。窓口の対応で心掛けていることは、信頼関係を築くために、しっかり話を聴くということです。また、話をさえぎらないこと、否定しないこと、そういった基本的なことを心掛けているほか、偏らない発言ということも頭に入れながら対応しております。話が長い方に対しては、一度話を整理して、相手に話を戻すといったことも行っております。

(委員)

私は、市役所の市民課の経験が長くなっております。知られたくないことの相談を受けた際には、別室に連れて行って話を聴くということと、最後まで聴くということを心掛けておりました。

(委員)

私は記者としてインタビューをするわけですが、時間が限られていることがほとんどです。取材する相手に気持ちよく話してもらわないと本音を聞き出すことはできませんので、自由に話してくださいと言えないときには、ある程度方向性を定めた上で質問を投げかけて話してもらっています。

新聞記事を作るときにはファクト、事実関係を核としまして、目的、背景、今後どのようにしていくかという展望について、ある程度方向性を整理した上で聴いていくことになります。子供に対しても同じです。

また、気持ちよく話してもらうためには、黙って聴いているよりは、相づちをうったり、聴き返したりとか会話が弾むように心掛けていきます。インタビューでは、そのようなことを考えながら行っています。

(委員)

民事調停と家事調停とでは傾聴のトレーニングの仕方が異なるのではないのかなと感じました。どちらの手続においても、しっかり話を聴いて公平な判断の材料を集めていくということは同じだと思いますが、家事調停においては、話している本人にちょっとした気付きが起きることで調停がうまくまとまっていく、そういう投げ掛けをしてもいいのかなと思いました。私たちの場合は、職員と面談をするときには、職員には気付きを与えるような面談の仕方をして今後に生かしていくということを行っています。傾聴は手段であって、目的はしっかりと解決に導いていく、そのような方向に本人たちを向かわせることであり、そういった内容の研修を実施していただければいいのかなと話を伺っていました。

また、配布資料にありました函館大学での出前講義は、非常に良い取り組みだと思って読ませていただきました。実際にやっておられるのかもしれませんが、ロールプレイング、実際の学生にやってもらうことで、学生の中での調停手続に対する意識も変わっていく、最終的には人材確保にもつながっていきますので、準備が大変だと思いますが、継続してやっていただければと思います。

(委員長)

もう一つの課題である調停委員の人材確保について、御意見をお伺いできればと思います。

(委員)

商工会議所、ロータリークラブやライオンズクラブといった民間団体に声を掛けたり協定を結ぼうとしたことはあったのでしょうか。

（裁判所）

商工会議所、ロータリークラブやライオンズクラブといった団体には、かつて御推薦いただいたことはありますが、団体として正式に協定を結んで御推薦をいただいたというよりは、個別にお願いして、窓口になっていただいた方に御推薦をいただいたというものです。最近はそのようなお願いもしておりませんで、御推薦をいただいてはいないというのが実情です。

（委員）

私が所属している青年会議所は 40 歳までの団体ですので、調停委員にはなりたくてもなれない状況ですが、それでも会員数約 60 名おりまして、50 種類位の業種のメンバーが所属しております。可能かどうかは別としまして、会同士でつながっていくような仕組み、すなわち、上の方で協定を結んでいただいて、直接そこから連絡がいくような形をとれば、専門的な知識を有する人の確保につながるのではないかと思います。

（委員）

専門性がどのようなことを指しているのかが分かりませんが、税務会計であれば税理士ですとか建築紛争であれば建築士ですとか、その辺は確保されていると思いますので、むしろ実際に調停をやっておられる調停委員の方であれば、調停の際にここが分からなくて困ったという経験がおありだと思いますので、調停委員の方に意見を聴いていただいて、こういう人がいたらいいなと探っていただくことがいい人材の確保につながると考えられます。

（委員）

家事調停委員には社会福祉士や精神保健福祉士などの資格を持った方がよろしいのではないかと思います。

（委員長）

貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

委員の皆様からいただいた御意見や情報は、今後、裁判所の更なる運用改善を図る上で参考にさせていただきたいと思っております。

以 上